第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	学生のミカタ
タイトル	大学生の精神的幸福度		
テーマ群	g) その他		
メンバー	和田祐香里　勝村佳音　中本椋太　青木昇太		
研究計画内容	【研究背景】 2020 年 9 月に刊行された『イノチェンティ　レポートカード 16』（ユニセフ協会）において，先進国における若者の幸福度調査の結果が分析された．その中で，わが国の子どもの幸福度は，総合順位では 38 ヵ国中 20 位であった．注目すべきは，日本の子どもは，「身体的幸福度」が 1 位であるのに対して，「精神的幸福度」は 37 位という”パラドックス”である．すなわち，日本の若者は，外面的に健康であるにもかかわらず，内面的に幸福を感じることができていない．他方で，日本の若者の幸福度は上昇傾向にあるという調査もある．古市(2015)は内閣府の調査（2015）に言及しており，古市の著書で「人は今よりも幸せな未来を描けなくなった時，幸福度が上がる」と述べた．では，古市の仮説が正しいとすれば，若者たちは将来に希望をもっていないのだろうか．わたしたちのチームでは，日本の幸福のメカニズムに着目し，研究を進めるに至った． 【研究内容】 甲南大学に在籍する学生を対象に，幸福度に関するアンケートを実施し，学生たちが現在の生活に対して，どの程度幸福を感じているか調べる．まず，アンケート結果を分析し，人間関係，将来への不安，学業不振などの点から，幸福度を高める要因，下げる要因を考察する．次に，この結果を全国調査や海外での調査と比較し，甲南生の特異性と，日本に共通する特徴を明らかにする．最後に，若者の幸福度が高い国と比較した際，日本に不足しているものは何かを探ることで，若者の幸福度を高める社会にするために，現代の日本社会をどのように変えていくべきかを検討する． 【期待される効果】 現代の日本では，少子高齢化が深刻な社会問題となっているが，出生数を増やすためには，これからの社会を支えていく子どもたちが，幸せを感じることができ，生きやすい社会を作る必要がある．いま目の前にいる子どもたちの幸福度を上げることが最も重要なのであり，本研究は，わが国に生きる若者の幸福度を上げ，持続可能な社会を構築するために，わたしたち一人一人に何ができるのかを考えるスタートとなるだろう． 【参考文献】 ・公共財団法人ユニセフ協会・イノチェンティ研究所『イノチェンティ　レポートカード 16　子どもたちに影響する世界　先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』（英語版・2020 年 9 月，　日本語版・2021 年 2 月） ・古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』（講談社，2015 年）		